

第4期中期目標期間3年目フォローアップについて

令和7年5月
国立大学法人評価委員会国立大学法人分科会
指定国立大学法人部会

1. 趣旨

指定国立大学法人制度は、世界最高水準の教育研究活動を展開し国際的な拠点となり得る国立大学法人を文部科学大臣が指定し、高等教育全体としての改革を牽引し、ひいては我が国の成長とイノベーションの向上を目指すものである。第3期中期目標期間に指定国立大学法人が掲げる構想等については、国立大学法人評価委員会に設置された指定国立大学法人部会（以下「本部会」という。）において、その進捗状況等を国立大学法人評価制度の中で確認を行うとともに、第4期中期目標期間に向けては、「第4期中期目標期間に向けた指定国立大学法人構想の展開について（令和4年3月）」として更なる構想の展開に向けた留意点等を取りまとめた。

第4期中期目標期間は、法人自らが積極的な情報発信を行うことや取組について、自己評価を毎年行うことなどにより、社会への説明責任が十分に確保されていることを前提として、国立大学法人評価における年度評価を廃止するなど国と法人との関係を見直したところであるが、第4期中期目標期間の折り返しを迎えるにあたり、構想の更なる展開を図るため、進捗状況等について書面やヒアリングを通して、本部会においてフォローアップを行うこととした。

フォローアップは全ての指定国立大学法人を対象として行い、構想の進捗状況について、指定国立大学法人が備えるべき6つの要素「人材育成・獲得」「研究力強化」「国際協働」「社会との連携」「ガバナンスの強化」「財務基盤の強化」にも留意の上、特に国際ベンチマークに対する進捗等を踏まえた活動状況を確認した。

なお、第3期活動開始の旧東京工業大学と第4期活動開始の旧東京医科歯科大学は、令和6年10月1日付けで統合し、新たに東京科学大学として活動を開始していることから、新大学としての指定国立大学法人構想を中心に確認を行った。

2. フォローアップの状況について

「1. 趣旨」に記載のとおり、第4期中期目標期間3年目を迎えた指定国構想の進捗状況について、別添1の説明資料に基づき、書面等により確認を行った。

その結果、全ての大学において、いずれも構想調書に掲げた目標の達成に向けて、取組を着実に推進しているものと評価できる。

特に東北大学については、指定国立大学法人が備えるべき6つの要素のうち、「人材育成・獲得」「研究力強化」「社会との連携」について特筆すべき進捗状況にあると評価できる。また、東京大学、京都大学についても、構想における目標値を前倒しで達成するなど、各要素において全体的に順調な進捗状況にあるものと評価できる。

さらに、名古屋大学及び大阪大学については「社会との連携」において進展がみられ、第4期中期目標期間指定法人である筑波大学及び九州大学についても、指定国立大学法人としての活動期間が短いものの着実に取り組んでおり、構想に掲げた目標の達成に向けて進捗していると評価できる。

一橋大学については、第4期中期目標期間の初年度に見直しを行った新たな指定国構想の実現に向けて、多くの取組についてはおおむね順調に進めているものの、やや遅れが見られる取組もあることから、第4期中期目標期間の後半に向けて、更なる構想の推進を期待したい。

なお、東京科学大学については、別添2のとおり新たに策定された指定国構想の内容を中心に確認を行ったが、統合による効果的な融合に向けた取組を推進していく構想であると評価できる。今後は、施策の具体化や効果的な情報発信等により、本構想の実現に向けて、総合的な戦略展開を期待したい。

3. 今後に向けて

「2. フォローアップの状況について」に記載のとおり、全ての大学において、いずれも構想調書に掲げた目標の達成に向けて、取組を着実に推進しているものと評価できる。

しかし、指定国立大学法人は「世界最高水準の教育研究活動を展開し国際的な拠点となり得る国立大学法人」を目指すものであり、国内にとどまるものではなく、国際的なレピュテーション向上をはじめ、プレゼンスを上げていることが求められており、その観点における取組や成果についてはまだ発展途上のように思われる。

その点からも、国際的ベンチマークに対する分析について、一部大学においては積極的に取組み、自己点検等において活用している状況ではあるが、多くの大学では分析が十分ではなく、効果的な比較や戦略の策定等に反映できていないものと受け止められる。ベンチマーク校との差異やそれを解消するための取組など、戦略的なベンチマークを行い、今後注力する点を明確にした上で活用していただきたい。

強力な国際的なプレゼンスを確立するには、国内向けにとどまらず世界中のターゲットや競争相手との関わりをより重視することも不可欠であることから、グローバルな観点での現在地を確かめ、今後の構想のさらなる推進に期待したい。

別添1 各指定国立大学法人の説明資料

別添2 東京科学大学構想調書、工程表等